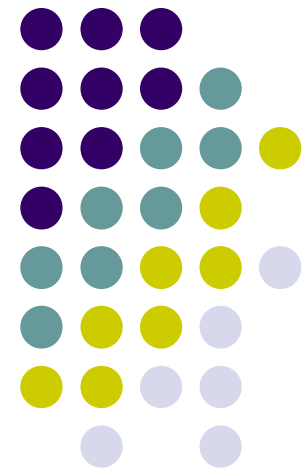


「本質」をめぐって

前編 ~ 「本質」ということは



日本語なのに実態は欧米語？ 概念を表すことばたち



- 「事実」と「真実」ふたたび
 - 「事実」 > 「fact」(英) > 「factum」(ラ)
 - facere の過去分詞 = 「作られたもの、なされたこと」
 - cf. faire(フラ)、hacer(スぺ)
 - 従って起きた事象、経験したことすべてを含む
 - 「真実」 > 「truth」(英) 「truth」(ギ)
 - truth = tree と同じ語源「堅いもの」
 - 「隠されたものが明らかになった」
 - 従って雑多な事実の背後にある変わらないものを指す
 - 日本語「真実」は平安時代、「事実」は明治から



それでは「本質」の正体は？

- 「本質」そのものは仏教語
- 明治維新以降は「essence」(英)の翻訳語
- essence > essentia(ラ) > esse
 - cf. etre(フラ)、ser(スペ)、be(英)



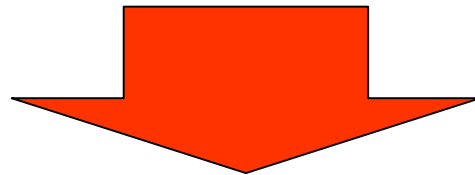
「be」とは？

- be = 「それがあるものであり続ける」
変化しない、永続性、永遠性
 - 出エジプトの「I am that I am.」(Ehye asher ehye.)
 - デカルトの「Cogito, ergo sum.」は「我思う、故に我あり」でよいのか？
 - シェークスピアの「To be, or not to be」
小田島雄志訳「このままでいいのか、いけないのか」
- 日本語の「です / ます」とは全く異なることば
 - 「This is a pen.」は本当は難しい？



(余談) 英語教科書の見直し

- 「be」は日本語には対応する言葉がない
- 英語の現在形は現在を表さない
 - 現在を表すのは現在進行形
 - 現在形が表すのは正に「be」に代表される
普遍の真理、日常の習慣など変わらぬものの
一般的叙述
- 英語の動詞は人称、単複によって変化する



- 「This is a pen.」が一番簡単に見えて一番難しい



何故「esse/be」なのか？(1)

- 「山」を「山」であると認識し、
「花」を「花」であると認識できるのは何故？
 - 「山」や「花」の中にその「本質」が潜んでいるから？
 - そのものではなく、我々の意識がそう捉えるから？
- 脳の生理学的機能
 - 本来は目の前の危険を察知するセンサー
 - 危険なものそうでないものを判別するための「分類」「データベース」機能を有する
 - 脳は個々の事物をそのまま処理できない？



何故「esse/be」なのか？(2)

- 雑多に現れては変化する事実 = 「現象」の前に我々(の脳)は参ってしまう
- 「esse/be」とはそれが本当は何なのか
そしてこれからどうなるかを教えてくれる
- 更にその背後にある、
「では自分はどう生きる(= esse)のか？」
- 再び「I am that I am」の意味